

そっ たく

啐啄

平成 28 年 9 月 1 日 刊行 No. 11
 編集・発行 大島町教育委員会
 教育文化課事務局
 TEL04992-2-1453
 題字「井島 吉春」

一期一会

教育長職務代理者 井島 吉春

子ども達は長い休みの間に基本的には家庭で過ごし、いろいろな出来事、出会いを通して心身共にたくましくなったであろう。

私達は毎日、朝起きて顔を洗い食事をして仕事や学校へ行き、喜怒哀楽、同じような繰り返しをしながらなんとなく過ごしているが、全く同じことを再び経験することは決して出来ない。今日友人と話しをして、明日同じ友人と話しをしたとしても、今日と明日は全く違うのであり、当たり前だと言えば当たり前のことだが、このことを当たり前ととらえず、今この一瞬がとても貴重で尊いことだと感じられれば、その人はきわめて前向きな生き方が出来ると思う。

「一期一会」はよく聞く熟語で、茶の湯の世界でも好まれる禅語であるが、その意たることは大変奥深く、本当にわかって使っている人はいったいどれぐらいいるのであろうか。「一期」は人間の一生涯、「一会」は唯、一度限りの会合のこと。人生とは命が母の胎内に宿った時から瞬間の連続で時を経て成長し、老いてやがて死を迎える。その一瞬一瞬は二度と繰り返されることなく（過去に戻らない）すべての出会いは一回限りで、せっかく頂いた尊い命なので精一杯に充実した生き方をしないと人間として申し訳ない。今日やるべき事を明日に延ばし、明日やるべき事をあさってに延ばす、などという事がたまにはあっても仕方がないが、人との出会いでは、その時その一瞬を大切にしたい。とてもややこしく重苦しい文になってしまったが、今この出会いで迷いから救われるかも知れないし一生涯の道が開けるかも知れない。善い人と出会って幸せな気持ちになり、悪い人と出会って自分を律すれば善悪共にありがたい。

学校や社会の集いも家族の団らんも友人との付き合いも、苦しい事も楽しい事も悲しい事も嬉しい事も、全て一期一会と受け入れ、唯、一度限りの人生を力強く懸命に生きてゆく、そんな島っ子が育ってほしい。

還暦

教育委員 藤田 月



今年、5月にとうとう60歳の還暦を迎えてしまいました。
 昭和31年生まれの子（さる）年、ちょうど今年が申年である。

ちなみに私が生まれた昭和31年（1956）は日本が国連に加盟、メルボルンオリンピック開催、日本登山隊ヒマラヤ・マナスル山登頂に成功などの出来事がありました。

干支（えと）で年齢を数えると、満60歳の年にふたたび元の干支に戻るところから還暦と呼ぶらしいが、人はこの世に生を受けていろいろな節目の年があります。

20歳の成人となった年や社会人となった年、結婚した年、これから迎えるであろう古希(70歳)、喜寿(77歳)、米寿(88歳)……どこまで生きられるかわからないが？

60歳は、やはり大きな節目の年である。

ほとんどの会社員や公務員は定年退職となり、仕事も一線からは退いていく。

最近では再雇用、期間雇用で働く人も多いが給与や労働条件はグーンと下がってしまう。

赤いちゃんちゃんこを着ることはなかったが、60歳は今までの節目の年とはちょっと違う寂しさを感じるのは私だけだろうか？

老眼や頭髮も薄くなり記憶力、体力も落ち老化現象は確実に進行しているのが現実ある。人間である以上誰しも通る道であるのは解っているのだが。

60年生きて歳だけは積み上げてきたが中味がない。

もっと勉強しておけば良かったというのが正直なところ、学校の勉強だけでなく、生活の知恵、生きる知恵を私たちの大先輩は良く知っていました。

平均寿命では、日本は世界一の長寿国、戦中・戦後は「人生50年」といわれたが現在は男性約80歳、女性86歳「人生80年」ともいわれています。

私も平均寿命まであと20年、最近「終活」なんていうことはも耳にしますが、これからの余生をどう生きていくのか大きな課題である。

おじいちゃん、おばあちゃん

教育委員 岡山 日出子

先日、夕方に放送されているテレビの情報番組で秋田県の東成瀬村が『学力日本一の村』として紹介されていました。人口約2800人、小学校は各学年一クラスで30人くらい、小学校も中学校も一校ずつ、そして高校を卒業すると半数以上が村を出るそうです。どこか大島に似ている、とつい見ていました。

この村の取り組みは、学校だけでなく行政、家庭、地域住民が一体となった成果であり、参考にしたいと日本だけでなく国外からも見学や視察が絶えないのだそうです。

この番組の中で印象深かったことが二つあります。一つ目は、授業では生徒が話し、考え、まとめる、いわゆる『生徒が中心の授業』を基本方針とし先生方が実践しているということ。二つ目は、この村はお米を作っている兼業農家がほとんどで三世帯同居が多く、家に帰ってからの子どもたちの宿題をおじいちゃん、おばあちゃんがみているということです。おじいちゃん、おばあちゃんといってもまだ60～70歳台で小学生の宿題を教えるのは問題ないと言っていました。へき地と呼ばれるそこには一般の塾等はなく学校と家庭での勉強がほぼすべてになります。その中で宿題をする子どもたちを見守り、時に教えてくれる存在はとても大きな役割を果たしているのだと感じました。ちなみにこの村での授業参観は保護者のほかに祖父母や地域の人々対象のもあり年6回行われていて参加率は100%だそうです。

大島では社会環境も家庭環境も東成瀬村とは異なり、若いおじいちゃん、おばあちゃんはフルで働き、三世帯同居も多くないと思われます。しかしこの世代の方が多方面でパワフルに活躍されていることは間違いありません。大島ならではのつながり方で子どもたちの学力や生活が向上する方法はないものかと考えさせられました。

この度7月1日付けで教育委員を拝命いたしました。山田三正です。埼玉県、都内そして大島の教職経験とふるさと大島での生活を基に大島町の教育に尽力させていただければと考えております。

さて突然ですが、AIという用語を最近よく耳にするとおもいます。AI (artificial intelligence) 人工知能です。人工知能の研究には、いろいろな分野があります。パソコンの音声認識。多量の画像の中からOさんの顔を見つける。知的ゲームでは将棋や囲碁の世界でプロ実力者にAIが勝利した。などもあります。囲碁盤の上は宇宙である。つまり果てがない世界だという比喩もあり将棋や囲碁は人のほうが勝るといわれてきました。が、次の一手をAIは計算*1してきます。めざましい近年の発達の結果でAIが勝利する場面が多くなりました。人工知能に求める働きの一つに、「人間が知能を使ってすることを機械にさせよう」というものがあります。このような研究の結果AIは、条件に当てはめてレントゲン写真からガンの有無を診断するようなことや、定型的な処理をする会計や税理の仕事などが得意な分野になります。20年後には単純製造作業やマニュアル通り行うような仕事はAIを使った機械が行うようになるともいわれています。そんな未来を前にして、AIに負けない力はなんでしょう。実際に行動する力でしょうか。これも大切です。でも、何かを行うロボットだったら疲れも何もなく黙々と仕事をこなしてくれるでしょう。課題解決力が大切であるとクローズアップされたことがありました。今でも大切です。しかし、課題を解決するには、AIがそれまでの蓄積データからあらゆるものを探し出し、最良と判断した解決策を提案してくれるでしょう。今からのAIに負けない力、それは課題発見力です。これは、当分AIにはできない(この予想もはたしてどうか?) ことです。

最近「ミライの授業」*2という本を読みました。なぜ勉強するのか。すべては疑問から始まる。既成概念にとらわれず、疑問に思うことそしてやってみる。などが、1時間目の授業から5時間目までの授業のように順を追って書かれています。ニュートンや伊能忠敬など、困難を乗り越えて世界を変えた業績を上げた人の行動を例に、14歳の子供に向けて「君には未来をつくる可能性がある。知は力なり。その方法と成し遂げるかは君次第だ」と語っています。過去の例で、1900年初頭のアメリカにはまだ車がなく、移動手段は馬車の全盛期。移動手段は馬車だという考えに縛られた人は、他人に何が欲しいと尋ねたら「もっと早い馬がほしい」と答えた時代。実業家のヘンリー・フォードは、まったく別の考えをした。馬よりも速く走れて、疲れを知らないもっと便利なものはないかと。それは、自動車だった。

課題をどう考え、どういう見方をして、どう発想を広げるかです。まさに、知は力です。ガリレオの地動説は天動説から見方を変えました。見方・パラダイムの転換です。キリスト教会の常識、大地は動かないを疑うことからはじまりました。人を疑うのではなく、事を疑った結果です。大島の子の誰もが未来を変える力を持っています。

*1 ここでいう計算とは「推論」と「学習」です。「推論」とは「知識をもとに、新しい結論を得ること」です。「学習」は「情報から将来使えそうな知識を見つけること」です。これをAIは、膨大なデータからより目的に合致する、モノを見つける処理をします。

*2 「ミライの授業」 瀧本哲史 講談社

就任のご挨拶

教育長 谷口 浄

平成28年度7月1日付で新教育長に就任いたしました、谷口浄と申します。教育を取り巻く課題は常に山積しております。子ども達の将来、大島の将来を見据え、重責ではありますが頑張っていきたいと思っています。またこれまで大島の教育委員会にご尽力をくださいました前委員長、前教育長に厚く敬意を申し上げます。

平成27年4月1日に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76条）」が施行され、新しい教育委員会制度がスタートしました。新制度の概要や新制度の効果及び留意すべき点について簡潔に説明します。

新教育委員会制度について

1. 教育委員会制度とは

教育委員会は地方自治法第180条の5に基づき設置された、首長から独立した地位権限を有する行政委員会です。また、教育委員会制度の趣旨には、政治的中立性や継続性、安定性を確保すること、地域住民の意向を反映することが含まれています。

従来の教育委員会制度は、教育委員長が教育委員会の代表で、教育委員会から任命された教育長が具体的な事務執行の責任者になっています。

2. 新制度の概要

旧制度には主に3点の課題がありました。

- ① 教育委員長と教育長が併存しており、責任者が分かりにくいこと。
- ② 非常勤である教育委員長が教育委員会の代表で会議の主催となっていたために、緊急時に必ずしも迅速に対応できていないこと。
- ③ 選挙で選ばれた民意を代表する首長との連携が十分に取れていない。

（大島町では特にこのようなことはありませんでした）

上記を解決するために法改正が行われました。次の①～③は、旧制度の課題①～③に対応します。

①新制度は教育委員長と教育長を一本化し常勤の新教育長（任期3年）として教育委員会を代表するとともに、具体的な事務執行の責任者となりました。②新教育長は緊急時に自らの判断で教育委員会の会議を招集する等といった柔軟な対応が出来るようになりました。③首長と教育委員会が教育行政の目標や施策の根本的な方針となる「大綱」を策定することになりました。また、首長は新教育長を直接任命します。なお、今回の法改正では教育委員会の位置付けや政治的中立性の確保といった、制度の趣旨に係る変更はありません。また所掌事務も、学校・社会教育に関すること等の権限を有する点についても従来のとおりです。

一方、首長の教育行政に関しては、これまでの予算策定、執行等の権限のほかに、今回新たに「大綱」の作成が加わりました。ただし、万が一「総合教育会議」の中で教育委員会の所掌事務について調整がつかなかった場合や、さらにその調整がつかなかった事項を首長が「大綱」に記載した場合でも、最終的な執行権限は教育委員会が持つこととなります。

3. 新制度では教育委員会の責任体制が明確になり、首長と教育委員会との連携が強化され、多様な課題に的確に対応し、政治的中立性を確保する制度の趣旨や首長と教育委員会との連携強化等を図った新制度の狙いを理解し、事務執行に務めてまいります。皆様のご理解、ご支援をお願いします。

つばき小学校

三原学級宿泊学習

三原学級そら組担任 有信あや

三原学級では、①集団での宿泊学習を経験し、基本的な生活習慣や身の自立の形成を図ること、②家庭から離れ、集団生活を過ごす経験から、心理的成長を促すこと、③公共の場で生活することを通し、社会性を養うこと、④友達と協力しながら、最後までやり遂げる態度を育てることをねらいとして、昨年度から、1泊2日の宿泊学習を行っています。その際に、新島小学校、神津島小学校との交流もしています。昨年度は神津島、今年度は、新島に行きました。三校の交流では、「ボウリング」や「ポッチャ」を、三校混合のチームで行いました。家族と離れて過ごした1泊2日。いつもは関わることのできない友達との交流など、よい経験ができ、心身ともに少し成長できたと思います。三原学級では、今後もこうした様々な経験ができる活動を計画し、実施していきたいと思っています。



三原学級そら組担任 有信あや

さくら小学校

「児童が主体的な学習力を身に付けるための指導法の工夫」

～「言葉による発信力を高める言語わざ」の活用を通して～

本校は、平成28年度東京都教育委員会 言語能力向上拠点校として、『さくら小 まなブック』を活用した、児童の主体的な学習力向上に向けた授業づくりに取り組んでおります。どの教科にも共通した学び方や学習過程を校内で統一し、児童が主体的に学びやすい環境を整えてきました。今年度は、各教科の各単元で「シラバス」(学習計画)を作成し、児童・保護者に提示することで学習に見通しをもたせるとともに、児童の学習習慣の確立を目指しております。『毎週が授業参観』を実施しておりますので、ぜひ、ご来校いただき、教員と共に授業を進める本校児童の学び合っている姿をご覧ください。



[4年教室 シラバスの掲示]

つつじ小学校

つつじ小学校 たてわり班で異学年交流♪

つつじ小学校では、今年度もたてわり班活動を行っています。6年生がリーダーシップを発揮し、全学年をまとめています。4月の遠足やたてわり遊び、波浮港で磯観察を行う自然体験教室、4・5年生のトウシキキャンプ…。今後も異学年で学び合う活動を行っていく予定です。すくすく育て、つつじの子♪



4・5年キャンプ♪グループでレク中です。



たてわり班発足式のあと、全校で記念撮影♪



テントも協力して立てました♪



自然体験教室もたてわりで♪



たてわり遊びに向けて話し合い♪

第一中学校

本校は平成19年度より東京都教育委員会の「指導方法工夫改善加配」事業で数学科の加配を受け、習熟度別指導を進めてきました。さらに、平成27年度からは同事業で英語科の加配も受け、少人数・習熟度指導を実施しています。数学科同様、2名の担当教員で、生徒一人一人の習熟度を的確に把握し「確かな学力」を育むための効果的な学習集団を編成することにより、きめの細かい指導を進めています。本校に入学し、3年間英語の学習を通して「100語以上の英文で大島について話す事ができる」ことを目標としています。東京オリンピック・パラリンピックで日本を訪れた外国の方々に堂々と大島を英語で語る一中生の活躍が楽しみです。



第二中学校

＜都内遠征＞

6月に行われた中体連大会、サッカー部が初優勝し島しょ大会進出を決めた他、テニス部は団体戦二位でしたが島しょ杯で都大会出場、野球部とバレー部は連合チームでの都大会出場と全運動部が都内へ遠征しました。反面、昨年度からの野球に加え、今年はバレーボールがチーム編成できない学校が生じて、学校対抗戦ができず、連合チームでの都大会となりました。かつて大島では「男子は野球、女子はバレーボールで三校がしのぎを削っていた」という話をよく聞きます。スポーツや文化活動が多様化する一方で部員不足の問題、大島の部活動のあり方も曲がり角に来ている気がします。

＜体育館改修＞

夏休み、体育館の改修工事が行われました。フロア、舞台はもちろん、放送設備やトイレの設備も新しくなり、気分よく二学期のスタートが切れました。これをもちまして、26年度から行われてきた二中の大規模改修は全て完了となります。

第三中学校

異文化国際交流



《1年生》



《2年生》






《3年生》

本校卒業生で現在アイルランドに住んでいる方が家族で大島に里帰りされました。旦那さんの妹さんも大島に遊びに来て、本校に来校されました。各学年、英語の授業等で交流を行いました。特に三年の授業では、けん玉を披露し、体験してもらったり、折り紙のツルなどをプレゼントしたりして、楽しく交流をすることができました。

教育委員会カレンダー－9月～12月

月	日	内 容	場 所
9	2	島しょ芸術文化振興事業「寄席公演」	大島町開発総合センター
10	9	大島町体育祭体育レクリエーション大会 (予備日10月10日)	つばき小学校グラウンド
10	22	ジュニアスポーツフェスティバル 少年相撲大会	都立大島高校体育館等
10	30	大島町体育祭駅伝大会	大島全域
12	26	雪国体験学習(12月29日まで予定)	新潟県上越市大島区(予定)

事務局からのお知らせ

学校教育係	社会教育係
<p>・就学時健診のお知らせ</p> <p>10月25日(火)午後、開発総合センターにおいて就学時健診を行います。該当者には後日、保育園経由で書類をお届けいたします。</p> <p>・連合音楽会のお知らせ</p> <p>12月6日(火)、第一中学校体育館にて、平成28年度連合音楽会を開催いたします。</p> 	<p>・開発総合センターの利用について</p> <p>開発総合センターの各部屋のご利用は下記のとおりとなっております。</p> <p>1階 大会議(約80人) 青年室(約15人) 和室(20畳) 調理室</p> <p>2階 大集会室(ホール約300㎡、約200人)</p> <p>各部屋の利用時間は9時～21時です。ご予約・料金のご相談は下記までお願いいたします。</p> <p>社会教育係 施設担当 2-1453</p>
給食センター係	図書館
<p>給食センター係からのお知らせ</p> <p>現在給食センターでは、食物アレルギーに関して町の要綱に基づき、可能な限りの対応を行っております。昨年の文部科学省通達「学校給食における食物アレルギー対応指針」の下、新しい「食物アレルギー対応マニュアル」を大島町で作成し、来年度より運用する予定で準備を進めております。今後は、保護者と学校・給食センターとの間でアレルギー物質等について、より綿密な打合せや各月毎の確認を複数の目で行うようになります。給食に携わる方々の情報共有等を行い、より安全で美味しい給食が提供出来るよう努めさせていただきます。</p> 	<p>*図書館からの貸出しのお願い*</p> <p>図書館では一人2冊まで、期間は10日となっております。(返却日が休館日の場合は翌日まで)本の返却日はお守り下さい。図書館の本は住民の大切な知的財産です。大切に取扱って下さい。(大島図書館)</p> <p>移動図書館ひまわり号では、皆様からのリクエスト本・ボランティアさんの募集を受付しています。詳しくは教育委員会窓口・図書館までご連絡下さい。 (04992-2-1453)</p> <p>沢山のご利用者お待ちしております。今後とも、ひまわり号をご利用下さい</p> 

※啐啄(そったく)とは

鳥の卵が孵化しようとするとき、殻の中で雛鳥が外に出ようとして内からコツコツ殻をたたき音を「啐」といい、母鳥がその孵化の瞬間を悟り、殻の外をコツコツ破ることを「啄」といいます。この啐と啄の呼吸が合うとうまく殻が割れ、丈夫な雛が誕生しますが、どちらか早すぎても遅すぎても良い雛は生まれません。教育も教える側の先生と教わる側の生徒が、啐啄同時である事が理想であり、依って大島町教育委員会便りを『啐啄』と名づけました。

啐啄

平成 28 年 9 月 1 日刊行
大島町教育委員会だより
発行・大島町教育委員会
編集・大島町教育委員会